

## 令和5年度第2回青梅市協働事業市民推進委員会会議録概要

令和5年7月25日  
市役所災害対策本部室  
午後2時00分～  
欠席1名

### 1 あいさつ

市民安全部長、委員長および前回欠席委員

### 2 報告事項

#### (委員長)

報告事項に入る前に各委員の所属する団体の近況をお聞かせいただきたい。

まずは当団体の状況であるが、地元小学校は150周年を迎え、自治会と共に団体でも寄付を募っているが、おかげさまで順調な状況となっている。また、地元のお祭りが再開されたが、山車巡行に人手が足りなかったため、神輿のみを出した状況である。

小中学校における働き方改革の影響で、部活動の指導が地域に委託され、先生の直接関与が少なくなっている。昔と比べて先生が動きにくい状況となっており、大きな時代の変化と捉えている。個人的な話しとなるが、防災士として地域で活動しており中学校で授業も行うなど、コミュニティスクールとして地域と学校のつながりも少しずつ前進している。

#### (委員)

コロナの各種制限から解禁された今、各種イベントが活気を取り戻し参加者数も増えている。高齢者の活気も取り戻されている一方、様子が見えてこないのがこどもたちである。こどもたちのこの4年間は非常に長く重要な期間であったものと実感した。マスク無しでのコミュニケーションが難しい子もいる。

コロナ禍によってこどもたちの間ではインターネットやゲームを通じたコミュニケーションが発達し、その中で安心を見つけているこどもがたくさん存在する。しかし、それを良しとするのが果たしてこどもたちにとって良いことなのかどうか。

コロナは人間関係の構築方法に大きな影響を与えたと捉えている。

(委員)

自治会では過去3年間で多くの退会者が出て、高齢化も進行している。また、支会での運動会の在り方を模索するなど、様々なイベントの運営を見直している。ボウリング大会も会場が無くなってしまったため、急遽日程の変更が必要となった。すべての参加者が楽しめるよう体育委員を中心に工夫を凝らしているところである。

一方、地元の盆踊りの開催においては以前よりも資金面で苦労している。

また、団体の運営資金が厳しく、会員から東京都の補助金の活用といった話しも出るが、仕事をしている会員も多いので色々な面で思うように進んでいない状況である。そんな中でも、多くの人々に参加してもらえよう試行錯誤しながら活動をしている。

(委員)

4月からこども食堂を開始した。市の助成金を活用する予定のため、こども食堂連絡協議会に参加することになった。

竹を使った流しそうめんを実施したり、カレー作りのボランティアを通じて、地域とのつながりを深めつつ、利用者を増やすためのイベントやPRを続けている。また、自治会館を使用する機会も得て活動の幅を広げることができている。

地元の花火大会も今年で3回目で、運営母体が毎年変わる中、試行錯誤しながら継続している。さらに、自分もこどものPTA参加をきっかけに、地元の夏祭りへの参加やつながりを作ることができた。

(委員)

当団体と関連する団体ではコロナ禍で引退者が増え、世代交代のバトンタッチがうまくいかなかった状況である。

また、コロナ対策で室内や密に集まることが難しい中、小学校の社会科のカリキュラムで森での活動が増えたその一方で、指導可能な林業家が不足している。そのため、要望に応えられない場面も増えてしまっている。

そのような中でも、「森バス」の運営を始め、幼稚園のこどもたちを山に連れて行き、活動後に園舎まで送るといった活動を行っている。送迎と活動を分けることなく、通しで実施することでこどもとの関係性が変わったことが

一つの発見。

また、コロナ前とコロナ禍で就学したこどもたちの態度や行動に大きな違いが見られる。コロナ禍で就学したこどもたちは、マスクを外すことができず、遊びの約束もできず、放課後の遊びの誘い方もわからないという問題がある。親が関わろうとしても、こどもたちにはルールがあり、また親の考え方も様々なので難しい状況が続いている。その結果、こどもたちはゲームやインターネット環境に流れ込み、そこでの交流が増えている状態である。

(委員)

こどもたちは親、教師以外の友達や地域の人などと繋がりたいと感じているが、その方法がわからない状況と考える。

地域とのつながりを重視し、その重要性をこどもたちに伝える大人の存在が必要だと思う。そのため、自分自身もその役割を果たすべく努力するが、この部分にかかる予算を課題解決のために投入してほしいと思う。

地域でこどもたちが見習うべき方を見つけられない現状もあり、こどものことをより深く考える大人が必要だと感じている。

(委員)

これまでの話しを伺って、現在のこどもたちは親や教師以外の大人との関わりを求めている状況を理解した。青梅ボランティア・市民活動センターでは、4年ぶりに夏休みを利用した「夏体験ボランティア」を再開した。

小学生が活動できる場所は限られているが、少しずつ申し込みが増えてきており、中学生には全員に案内チラシを配布している。まだコロナ禍前の規模に回復していないが、この夏のボランティア活動を通じて、こどもたちが新たなつながりのきっかけになればと期待している。

(委員)

都下における「夏体験ボランティア」に、中・高校生の参加が増えており、特に「こども食堂」はボランティア活動だけでなく利用者としても多くのこどもたちが集まり、場が広がっている印象を受けている。東京都内に800以上のこども食堂があり、不登校やひきこもりのこどもとその家族が集まる場が増えている。活動を続けるのが困難な団体もあるが、新たなこどもの居場所づくりが広がっていると捉えている。

地域で人手が必要とされている場所と人々とをどう繋げていくかが重要だと感じている。

(委員長)

行政側から何かあるか。

(市民活動推進課長)

久々に開催された青梅マラソンや通常で開催に戻った花火大会、さらに今年度は9月にお～ちゃんフェスタも開催予定で、各種イベントや庁内の各事業が再開されつつあります。これらのイベントは多くの来場者が見込まれるため、安全に運営するための対策を検討しながら、成功例を増やしていきたいと考えています。

(市民安全部長)

青梅市では新たに第7次総合長期計画を策定しました。これにより各施策分野の体系を踏まえた事業を実施し、同計画内で示した10年後の青梅市を見据え、事業を推進してまいります。

(委員長)

以降は次第に沿って進行する。

令和5年度市民提案協働事業審査結果について(資料1)

#### 事務局から説明

(委員)

資料1のNo.2アートスタート事業「はじめてのおしばい」の事業担当課が「子育て応援課もしくは社会教育課」となっているが。

(事務局)

資料に記載の内容は事業提案時の内容となっております。

実施にあたり事業担当課は「子育て応援課」となりました。

(委員長)

所属団体の事業であるNo.3「おそきの空き家に住みたい♪かなえたい♪プロジェクト」について、行政側が所有している個人情報の取り扱いの難しさに苦労しているが、当事業を通じて空き家の活用を進め、最終的には市全体に拡大していきたいと考えている。

(委員)

市民提案協働事業について、現状の形態も良いかもしれないが、先ほどの情報交換で明らかになったような青梅市の課題を全員で解決するといった方向へ進めるのも一つの方法と考える。

(委員長)

当委員会で青梅市の未来像を検討するのも良いと考える。

## 2 報告事項

市民等との協働事業（令和4年度実施）について

(別冊資料・資料2)

事務局から令和4年度実施事業について説明した後、青梅市の協働事業に関する意見について各委員からの後日提出を依頼

(委員長)

(別冊資料の目次欄の下部に記載) 課題と今後について、形骸化・形式化となっている事業についての見直しを今後誰が考えていくのか。

(事務局)

行政側の意見として出てきているので、行政側が考えるべきと捉えております。

(委員)

形骸化・形式化というのは具体的に何の事業を指しているのか。

(事務局)

主に市民センター運営協議会で行政側の意見として出されている。

(委員長)

確かに市民センター運営協議会の議題については固定化されている。

(委員)

市民センター運営協議会は委員がほとんど発言しない。行政側からの報告事項が主で、協議会で決定していることはほとんどない。

(委員)

今は市民団体・自治会・行政それぞれが単独で問題解決することは難しく、「みんな」で考え、意見を出し合い、実行していくのが「協働」と考える。この委員会でそれが可能だと思って自分は参加を希望した。

(委員)

そういった想いや部分を、今回実施された事業の評価だけでなく「青梅市の協働事業に関する意見」として事務局へ提出するがよいと考える。

(委員長)

意見の提出締切が10月1日となっているので、次回委員会に付議する前に委員長および職務代理者に展開いただき、事務局も交えて調整させていただきたい。

(事務局)

そのように対応させていただきます。

(委員)

委員個人の意見ではなく、所属団体の意見として総会に付議後に提出させていただきたい。

(事務局)

承知いたしました。

(委員長)

意見書については広い視野でご記入いただき、委員会で意見をまとめていければと考えている。

#### 4 その他

(事務局)

第3回の委員会は11月に予定しています。後日日程調整させていただきます。